2015年度（平成27年度）事業報告

組織運営に関する事項

(1)理事会・評議員会の開催

○第1回評議員会	4／20 定款第21条(決議の省略)による評議員会／中京青少年活動センター
○第2回評議員会	6／25 中京青少年活動センター
○第1回理事会	6／ 9 中京青少年活動センター
○第2回理事会	11／9 中京青少年活動センター
○理事・評議員合同会議	2／14 中京青少年活動センター
○第3回理事会	3／25 中京青少年活動センター

(2)人事交流

(公財)京都市国際交流協会と2回目の人事交流を実施。相互に1年間に亘り職員を出向させた。

(3)KES認証の継続

2008(平成20)年5月に受けたKES(ステップ1)の認証を継続(確認審査合格)し，環境負荷の軽減を意識した法人・施設運営に努めた。

○確認審査の際に利用者や市民に向けた啓発に力を入れてほしいとの指摘があったことを受けて，KES担当者会議で協議し，各センターでFacebookやロビー掲示などによる外部発信に取り組んでいる。

○「祇園祭ごみゼロ大作戦」に協力し，利用者にも呼びかけて多くのボランティアスタッフが当日協力した。

(4)ディーセントワークへの取り組み

協会の就業環境の改善及び就業意欲の向上について，ディーセントワークの視点から検討するタスクチームを立ち上げ，【働きがいのある人間らしい仕事】をめざした職場風土づくりについて検討を進めた。

○鈴木 暁子(評議員)，齊藤 真緒(理事)に協力いただき現場ワーカーを交えてチームを編成した。

○協会職員を対象にアンケート調査を実施し，全体的な傾向が見えてきた。

○今後はこの調査を元に次の段階へ進めていく。

Ⅰ．協会（本体）事業

京都市からの補助金及び協会自主財源を原資として以下のように実施した。

1．ネットワーク形成事業

若者の成長を支援する様々な団体や機関の活動が，有機的につながることを目的として下記の取り組みを実施した。

（1）若者に関わる機関・団体・人のネットワーク形成と連携を拡げる事業

①若者に関わる団体の交流・情報交換・研修の場づくり（京都市補助事業）

〇青少年育成団体交流会を 2/6 実施。28 名 31 団体の参加があった。

②外部機関・団体と構成する実行組織への参画

〇NPOセンター・ユースビジョンと協働して「学生PLACE＋」を運営した。

〇全国若者支援ネットワーク機構に参画した（理事派遣）。

〇人づくり21世紀委員会に参画した（副幹事長／各区実行委への参加）。

〇ユースACTプログラムに協力し高校生の社会参加体験プログラムを実施した。

〇チャイルドライン（こども電話）に協力した（共催・理事派遣）。

〇「AIDS文化フォーラムin京都」運営委員会に参加した。

③青少年育成・支援団体との事業共催・後援（名義提供）

〇各育成団体・外部機関・関係団体からの希望に対応じて名義共催，後援。

対応してユースサービス／センターの広報等への協力をいただく。

＜共催事業＞

事業名	主催
こころのサポート事業（地域理解促進活動）講演会	非営利特定法人「若者と家族のライフプランを考える会」
声優養成講座	特定非営利活動法人キンダーフィルムフェスト・きょうと
チャイルドライン受け手ボランティア養成講習	特定非営利活動法人チャイルドライン京都
ユースACTプログラム	シチズンシップ共育企画
♪あんだんて♪12周年記念不登校経験者シンポジウム	親子支援ネットワーク♪あんだんて♪
「ちがうことこそすばらしい！子ども作文コンクール」	全関西在日外国人教育ネットワーク
「ナルコティクスアノニマスとは？」	NA関西エリアPIコミティ
「主権者教育の副教材をどう活用するのか？」	日本シティズンシップ教育フォーラム
公開ラウンドテーブル	認定フリースクールアウラ学びの森　知誠館
「第2回　大報告会2015」の事業共催について	CLUB ATTRACTION
記録映画上映会&トークセッション「木と共に生きる」	民映研の映画をみんなで上映する会
「桃山に桃を植えよう！わくわく桃植樹体験！」	ぴあぴあコミュニティサポート合同会社
First impact	First impact
俳優のためのダンスワークショップ	NPO法人京都舞台芸術協会
Dance School 「Swish Kid's」	SWISHダンスファクトリー
平成27年度レクリエーションインストラクター養成講習会	京都府レクリエーション協会
第39期しもせいバレーボールリーグ（Sリーグ）	しもせいバレーボール（Sリーグ）運営員会
やましなを語りつぐ会	山科を語りつぐ会
京都中央地区BBS会　アフタースクール洛東（ASR）	京都中央地区BBS会
「ときめき☆講座7『夜間定時制高校はどんなところ？』」	渡日・帰国青少年（児童・生徒）のための京都連絡会
「災害復興支援活動に取り組む学生のシンポジウム」	京都文教大学　災害復興支援シンポジウム実行委員会
Bboy TengRock Workshop from REP ＆YELLOWSUNS ＆ STREET MAST ERS CREW	小﨑　泰佑
下京つながりフェスタ	下京子育てつながろう実行委員会

＜後援等事業＞

事業名	主催
「ひきこもる人と歩む」出版記念講演会	「ひきこもる人と歩む」出版記念講演会実行委員会
AIDS文化フォーラムin 京都	AIDS文化フォーラムin 京都運営委員会
京都やんちゃフェスタ2015	公益社団法人京都市児童館学童連盟　他
青年海外協力隊募集説明会	独立行政法人国際協力機構　関西国際センター
サンクロレラ presents KYOTO UTA FESS	KYOTO　UTA FESS実行委員会
グループそのまま　京都BASIC	グループそのまま
こころのサポート事業（地域理解促進活動）講演会	非営利活動法人「若者と家族のライフプランを考える会」
「子ども・若者貧困京都プラットフォーム」（仮称）準備会	反貧困ネットワーク京都
車いす世界旅行家木島英登氏ご講演	京都大学PUKU実行委員会
三館交流オニム大会	希望の家・山王・崇仁児童館主催
2015夏まつり	京都市中央市場
「子ども・若者貧困京都プラットフォーム」定例会	反貧困ネットワーク京都
「京都市こころのサポート地域活動助成事業　講演会」	特定非営利活動法人京都ARU
「宙の日」拡大講演会	特定非営利活動法人京都ARU
崇仁～ひと・まち・れきし～フリーマガジン	崇仁発信実行委員会
大学英語研究会主催大会ESS	大学英語研究会
「子ども・若者貧困京都プラットフォーム」定例会	反貧困ネットワーク京都
「宙の日」拡大講演会第2回	特定非営利活動法人京都ARU
アカペラサークルQOO交流・主催ライブ	アカペラサークルQOO
「響」のつどい	下京少年補導委員会

④関係行政機関・関係団体への協力（協力事業）

協会のもっている“資源”をもって，外部機関・団体との連携・協力を行った。それによる対価は事業収入として確保した。

〇行政機関，他団体に委員等を派遣した（市関連／市教委関連／他公益団体関連）。

＊京都市社会福祉協議会（評議員）　＊京都市青少年活動推進協議会（委員）
＊環境保全活動協会戦略小委（委員）　＊京都市児童生徒登校支援連携協議会委員
＊京都市多文化施策審議会（委員）　＊新しい定時制高校創設アドバイザー会議（委員）
＊京都子ども子育て会議(特別委員)　＊京都市子どもを共に育む市民憲章推進委（委員）
＊京都市HIV感染症対策協議会（委員）　＊京都市児童館学童連盟（理事）
＊京都府レクリエーション協会評議員　＊社会福祉法人西陣会（評議員）

〇外部機関・施設などからの依頼に応じて，企画提供や講師派遣などの協力を行った（主なもの）。

滋賀県立大（生涯学習論）ゲスト講師
京都教育大学　社会教育論　学外研修（5／20）
市立学校教員選考試験（8／22・23）民間面接員
ガクシン　デートDVに関する座談会（9／9：アドバイザー）
不登校フォーラム（11／8：分科会講師）
健康生きがい学会（11／21：分科会講師）
京都市ケースワーカー研修（11／24：講師）
内閣府DV予防啓発研修会（11／26：実践報告者）
花園大学子どもの貧困研究会（3／6：ゲストスピーカー）

〇少年非行の減少や軽減につながる取組での連携

スクールサポーターの活動に協力する（センターを使って少年との面談及び学習指導）とともに，非行少年の立ち直り支援活動の場を提供した（北センター：地域清掃）。

〇大学コンソーシアム京都連携科目「ユースサービス概論」を開講（立命館大学と共同）した。

(2)若者に関わる情報の受発信事業(京都市補助事業)

○ボランティア特集号の発行

ユースアクションプラン認証事業と連動させWEBでボランティア情報を発信，紙面を1回発行した。

○広報誌「ユースサービス」の発行。

今年度前半に体裁，発行部数，記事内容等の再検討を行いリニューアル発行。

○第22号から第24号を年3回(3,000～4，000部)発行。関係団体や個人，学校・大学公共施設及び，厚生労働省，内閣府他の全国の関係機関に配布した。

＊第22号／9月号　特集「若者の政治参加を考える」　＊第23号／1月号　特集「若者×スポーツ」
＊第24号／4月号　特集「若者×結婚」

(3)ユーススクエア高辻の運営

○施設の明け渡しが必要となり，年度途中に施設を閉鎖し撤収した。地元の夏祭りにのみ協力した。

2. 市民参加促進事業

青少年が「市民社会」の主体となる“市民”としての経験・学習の機会提供を目指す事業。シティズンシップ開発や地域参加，青少年活動センター運営への参画を進める取り組みを実施した。

(1)若者の青少年活動センター運営参画

○6センターの運営協力会(育成委員会)に若い世代の委員に加わってもらった。

○センター施設運営(ロビー活用等)に若者の意見を取り入れる試みを実施した(東山・南他)

(2)シティズンシップ教育事業の実施(京都市補助事業)

○京都市長選前後一週間に全センターで若者参加型の掲示板を行い，242 枚のコメントが集まった。住民票を移していない若者が多く，また選挙や政治について関心がないわけではないことがわかった。

○若者の地域参加を進めるプログラムを北、下京、山科青少年活動センター他で実施した。

3. 若者を巡るニーズ把握と課題の解決に取り組む事業

若者特有のまた新たな社会的ニーズや課題を把握し，それに即したプログラム開発を目指した。

(1)新たな社会課題を把握し，それに取り組む事業開発を行う(京都市補助事業)

①セクシュアルヘルス事業

○子どもの未来支援委員会(一般社団法人未来支援委員会に改組)の助成金を受けて，年間を通して，事業を実施した。

○リーフレット及びパネルを作成し，各青少年活動センター・保健センター等と連携した予防啓発活動を京都市内 24 か所で実施した。

○ボランティア研修(2 回)，恋愛カフェ(4 回)，支援者向け研修(3 回)など，青少年から支援者まで参加できる取り組みを行うことができた。

②新しい事業開発プロジェクト

○「若者と食」に関する事業の開発と試行。企画委員会タスクチームを作ったが，開発試行までは取り組めていない。

○その他のテーマについては年度内には絞り込めなかった(アウトリーチ型の展開等)。

4. 担い手育成事業

ユースワーカーの資格化をすすめ，ユースサービスの社会的認知が得られることを目指した。また，ユースワークの現場体験を通してユースサービスの理解者として，各地で活動してくれる担い手の育成を図った。

(1)ユースワーカー養成・資格認定事業

○基礎講習を 8 月と 3 月の 2 回実施。

○「ユースワーカー養成講習＠石巻」を共催実施(9月)　　主催:NPO法人 TEDIC

(2)インターン受入れ／ボランティア育成・研修事業

①実習生／インターンシップ受入れ・指導事業(学生の希望センターが偏る傾向にある)

○大学コンソーシアムからのインターン生の受入れ(中京センター2 名，下京センター1 名)。

○京女大社会教育実習受入れ(基礎実習:東山センター4 名，社会教育実習:山科センター2 名，南センター2 名)

○龍谷大学大学院協定型インターンシップ生の受入れ(中京／事務局1名)。

○京都女子大学夏季インターンシップ受入れ（東山センター2 名，山科センター2 名，伏見センター1 名）

○立命館大学シチズンシップ・スタディーズ（下京センター2 名）

○立命館大学全学インターンシップ生受入れ（北センター2 名，中京センター3 名）

○京都橘大学夏季インターンシップ生受入れ（中京センター1 名，山科センター1 名，南センター2 名）。

②協会事業に関わるボランティア及びNPO等関係団体のスタッフ養成を行う。

○中3学習会ボランティアの全体研修・交流を 2 回実施し（6/17，2/29）1 回目は，ボランティア募集とセットで行った。参加者は回数を重ねるごとに増加している。

○その他課題別研修の実施。（各センターでのボランティア研修の実施）

（3）職員研修の計画・実施　（※2015年度は担い手育成項目に位置づけた）

○研修プロジェクトを運営し年間研究計画に沿った研修を実施した。今後の組織基盤強化に向けて計画的な人材養成に向けた取組を進めた。

＊新人職員研修（①職員・ワーカーとしての基礎　②現場での実践記録を作成しSVを受ける）

＊若手職員研修（ワーカーとしての基盤となるスキルについて研修を実施）

＊外部派遣研修（多様な外部研修機会に職員を派遣した）

○子ども若者育成支援推進法関連業に対応した取り組みのための職員研修を進めた。

○職員による事例研究会を定例開催した（年間10回）。

○全職員が参加する「全体研修会」を実施した（5／20）。

5．調査・研究事業

新たな事業展開の機会をつかみ，社会的要請を先取りするため幅広い調査・研究活動を行う。

（1）立命館大学との共同研究（ユースワーカー養成／若者学研究）

①ユースワーカー養成に関する立命館大学との共同研究

○アカデミックベース強化，資格制度作りに向けた研究協議を継続して行った。

定例的に実践者からのテーマに即したレポートを受けて議論する研究会を開催した（3回実施）。

＊共同研究メンバー

（立命側）野田正人氏・荒木　寿友氏・小西　浩嗣氏・中村　正氏・齊藤　真緒氏

（協会側）水野・横江・竹田

＊公開研究会については開催できなかった。

＊「若者学研究会」を立ち上げ，5回の研究会を開催した。立命大の学生・院生を中心として10人程度で実施。

○ユースワーカー養成の在り方の検討

＊外部研究者の研究チーム（以下）に参画しワーカー養成の在り方についての研究を進めた。

②ユースワーカー養成プログラムの実施

○大学院（応用人間科学研究科）でワーカー養成コースを共同運営した。

（概論）　9人受講／（演習・実習）7人受講　センター及びサポステで3～5ヶ月の実習を行った。

（2）外部機関・研究者等との共同研究

他都市での実践や専門職養成についての調査・研究に加わり，ユースワークについての検討を進めた。

○「若者援助・政策とSocial　Pedagogy研究会」（法政大学・平塚科研費研究）に継続参加。

＊4年間の学びの記録作成報告書作成を3月におこなった。協会からの参加メンバーは，「実践をPedagogicalにふりかえる」レポートを提出した。

○子ども若者支援専門職員養成研究への協力

＊奈良教育大の生田教授を代表とし社会教育研究者による研究会に参画（研究協力者）した。「子ども若者支援士（仮称）」養成に向けた調査・検討に参画した。

＊横浜・札幌の財団との調査結果を基にして職員の専門性や養成・研修のあり方について学会発表を行った。

○文教大学地域協働研究教育センター

＊客員研究員の派遣（グローバル化時代における地域の国際協力のあり方を探る）

（3）「若者調査」（予備調査）の実施（特定費用充当）

＊調査テーマを“協会の活動に関わった若者へのインタビューを通して，ユースワークの価値を確かめる”こととして，2016年度の本調査の手法確立のための予備的インタビューを実施した。

＊外部協力者：原　未来氏（滋賀県立大教員）・松村　幸裕子氏（協会理事）・石山　裕菜氏（企画委員）

6. 事業企画・運営体制の整備と事業所間プロジェクト

協会組織が，社会的要請に応えたものであり続けるための仕掛けとして取り組んだ。

(1)企画委員会と連動した事業企画

○協会の新たな事業課題への取り組みの在り方について，以下の5つのタスクグループを作り，現場ワーカーも含めて検討した。

①若者の政治参加　②若者と食（の安全保障）　③学生や若者の“恋愛”とSNS
④地域におけるユースサービス　⑤若者と発達障害・精神疾患

＜委員会の開催日程・活動日程＞

月　日	内　容	検討事項・作業詳細
2015. 5. 12	委員会	タスクチーム報告／今後の委員会の進め方について検討
2015. 6. 30	委員会	タスクチーム報告
年間	タスクチーム	ミーティング及びリサーチをタスク毎に進めた。

＜企画委員一覧＞

斎藤 真緒	立命館大学産業社会学部准教授	知名 純子	まるいクリニック医務部長／PSW
川中 大輔	シチズンシップ共育企画代表	山本 卓司	京都市教委生涯学習部首席社会教育主事
谷口　肇	法務省浪速少年院法務教官	幸重 忠孝	幸重社会福祉士事務所代表
石山 裕菜	同志社大学院生（博士課程）		

(2)戦略的な広報の取り組み

○社会的認知を高めるための広報戦略をプロジェクトチームにより検討・実施した。

＊全事業所に広報計画の策定を求め，担当者向け研修と事業所対抗の広報コンペを実施した。
＊協会の活動を広く支援者に理解してもらうための動画CMを作成した。
＊Yahoo!「Links for good」の全事業所での実施と分析を行うとともに，Facebook広告を試行した。

(3)寄付・協賛獲得のための取り組み

○プロジェクトを編成して以下に取り組んだ

＊寄附ホームページのコンテンツの充実とクレジットカード決済の運用開始
＊ファンドレイジングについての研修参加，及び伝達研修の実施
＊事業を指定しての寄附金獲得
＊賛助会員制度構築準備
＊広報プロジェクトの協力のもと，「Links for good」を活用して，インターネット上に寄附募集ホームページの広告掲載を行った。

(4)スーパーバイズ・コンサルテーションの実施

○現場スタッフを支え，業務の質的な向上をはかるためにスーパーバイザー（山本智也氏：大阪成蹊大学）を委嘱し，年間を通してコンサルテーションが受けられる体制を作った。

前期は随時。後期は各事業所を巡回して11回実施した。

(5)事業評価の実施

○年間の評価サイクル（目標設定→評価→枠組みの再構成と計画への反映）を実行した。
全事業所事業を評価する評価会を実施（1／10）し，2016年度事業計画立案につなげた。

(6)予約・台帳の電子化

○予約電子化については，下京においてモデル的に移行運用を進めながら，本格運用に向けて細部の課題抽出，修正，調整等を行った。ハード面の整備等もあり，全センターでの完全移行には至らなかった。

7. 環境負荷の少ない団体・施設運営

KES認証の趣旨を生かして環境負荷の少ない施設運営を目指した。また，外部発信や環境啓発事業を通して，施設利用者や周辺の人たちの意識の向上を促進する取り組みを行った。

○環境改善目標の実現：センター周辺の清掃（毎月1回）

○環境意識の充実と外部発信（毎月1回）・環境啓発事業の実施（3ケ月に１回）

Ⅱ．子ども・若者支援事業及びその他受託事業

1．京都若者サポートステーション受託事業・・・若者の社会的・職業的自立を支援する

一定期間無業の15歳から39歳までの若者に対し，職業的自立に向けた支援を行うため，厚生労働省の認定及び京都市から委託を受けて運営した。新たに定着・ステップアップ支援事業，チャレンジ体験事業に取り組んだ。また，進路決定者数（週20時間以上と規定が変更）としては130件となった。「若者雇用促進法」において，次年度よりサポステが法的に位置づけられることとなった。

(1)入口支援事業

○窓口インテーク：ユースワーカーがインテーク面談を実施した。

○個別対応：緊張感が高く，なかなか専門相談につなげにくい利用者に対して，関係づくりを行いながら本人の思いを整理し，「ニーズを見出す」，「課題を抽出する」かかわりを行った。

(2)専門相談事業

○キャリアの相談：火・金・土曜日実施　○こころの相談：月・水・木曜日実施

○保護者相談：第1木曜，第2，4土曜日，第3金曜日実施

(3)就活基礎力

職業に就くための，基礎的な能力を学ぶ各プログラムを実施。

○演劇から学ぶ，働くためのコミュニケーションワーク（インプロ）（東山）：演劇の技法をつかって，表現することを学ぶワークを，今年度は年3クール実施した。

○アジプロ（南・下京センター）：センターにて，擬似的な空間で職業体験（南＝喫茶，下京＝事務）を行った。

○イマココトレーニング：マインドフルネスの技法を用いて，緊張緩和のための練習を行った。

○キャリコロ(キャリア・サイコロ)：サイコロで題目を決めそれに則した話をする。会話力アップを目指し実施。

○キャリコロアドバンス：キャリコロの参加者増により開始，ワーカーの設定テーマについて話す。

(4)就活実践力

基礎力の次のステップとして，就活で実践できる能力を学ぶプログラムを実施。

○チートレ（チームワークトレーニング）：月1回行う発送作業において，役割分担し協力して作業する体験を通して，協働で働くことを体験的に理解し，実践できるための場を設定した。

○自分を知って仕事に就こう：現在の自己イメージを明確にし，「自分軸」を考え将来ビジョンを作成し現時点で出来る事を確認する機会を持った。

○カタチをしっかり学ぶ就活面接対策講座：ビデオを使い，面接の所作を学ぶための講座を実施した。

○電話をかけよう！：電話をかける一歩を踏み出せない利用者の一歩を促すため12月より新規に実施した。

(5)保護者支援事業

○親こころ塾：一定期間無業状態の我が子との関わり方について学ぶ場を年3クール実施した。

(6)職場体験事業

○中間的就労「野菜づくりから仕事に近づく」（北センター）：農業（畝つくりから収穫，販売まで）を行い，働く体験をする機会を持った。主体性，チャレンジ精神，生活のリズムを作ることを目指し実施した。

○アジプロセカンド：従来のユースホステルでの就労体験を1ヶ月実施。また，就労支援機関のIT研修会に参加する体験機会を新たに設定した。

○チャレンジ体験事業：3～4週間の就労体験とその後の継続雇用のためのプログラム。受入先の開拓に取り組み，各活動センターの運営協力会に協力を打診。セブンイレブンの協力により，約1か月の就労体験を実施し，その後現在も雇用されている。北・中京活動センターにて，事務仕事の就労体験を実施した。

(7)サポステ周知事業

○今年度はハローワーク京都七条で毎月実施したほか，京都産業大学で1回実施した。

○京都市主催の合同企業説明会に参加し，来場者への説明等を実施した。

○新たに，Yahoo！Links for Goodを利用した広報を実施した。

(8)外部機関連携事業

○大学連携：前述の京都産業大学での出前相談会を実施した。

○高校連携：進路未決定で卒業予定の生徒や中退者予定者への支援のため，市内4校に訪問を実施した。

○ジョブパーク・ハローワーク：27年度より，ハローワークで本登録をすることになり，ハローワークとのやりとりに取り組んだほか，ケースのカンファレンスを行った。また，京都府内のサポステの連携を図った。

(9)定着・ステップアップ支援 ☆

○個別の相談を，就労が決定しても職場の定着及び正規雇用へのステップアップを目指す場合，継続して相談を行う定着・ステップアップ支援を実施した。

＜行事一覧＞

行事名	実施期間	回数	参加(延)	備考(実施場所等)
(1)入口支援事業				
窓口相談(インテーク・来所個別対応)	通年	―	1139	サポステ
(2)専門相談事業				
こころの相談	通年	―	552	サポステ及びジョブパーク
キャリアの相談	〃	―	503	サポステ
保護者の相談	〃	―	111	南センター
(3)就活基礎力				
アジプロ南(3クール)①②③	5月・10月・1月	21	34・41・26	南センター
アジプロ山科	9/1～17	6	12	山科センター
アジプロ下京	1/5～28	6	18	下京センター
インプロ東山(3クール)①②③	5月・10月・1月	14	19・56・41	中京センター
イマココトレーニング	毎月1回実施	12	92	中京センター
キャリコロ	毎月1回実施	12	151	中京センター
キャリコロアドバンス	毎月1回実施	10	83	中京センター
(4)就活実践力セミナー				
チートレ(チームワークトレーニング)	毎月1回実施	13	76	中京センター／1回臨時実施
カタチをしっかり学ぶ就活面接対策講座	毎月2回実施	22	68	中京センター
電話をかけよう！	12月より月1回	4	14	中京センター
自分を知って仕事に就こう①	6/23～7/6	3	21	中京センター
自分を知って仕事に就こう②	10/2～10/9	3	27	中京センター
自分を知って仕事に就こう③	2/23～3/7	3	22	中京センター
(5)保護者支援事業				
親こころ塾①	6/20～7/18	3	57	中京センター
親こころ塾②	10/17～11/21	3	31	中京センター
親こころ塾③	2/20～3/19	3	50	中京センター
(6)職場体験事業				
野菜づくりを通して仕事に近づく(北)	5～8月	45	290	北センター・農地(岩倉)ほか
就労体験農作業継続(北)	8/15～9/18	14	75	北センター・農地(岩倉)ほか
IT体験(ISFネット)	3/16～18	3	6	ISFネット大阪支店
アジプロセカンド(宇多野)	3/10～28	8	8	宇多野ユースホステル
チャレンジ体験(宇多野)	9/7～10/2	16	18	宇多野ユースホステル
チャレンジ体験(セブンイレブン)	2/1～2/27	20	40	セブンイレブン八条通東店
チャレンジ体験(北)	1/26～2/22	18	18	北センター
チャレンジ体験(中京)	2/5～29	11	11	中京センター
(7)サポステ周知事業				
出前相談会(ハローワーク京都七条)	毎月1回	11	28	ハローワーク京都七条
出前相談会(京都産業大学)	2月15日	1	10	京都産業大学
出前相談(京都市合同企業説明会)	1月14日	1	6	みやこめっせ
(8)外部機関連携事業				
高校中退者支援(洛陽全日)	週2回	63	391	洛陽高校
高校中退者支援(伏見定時)	毎月1回	11	12	伏見工業高校
高校中退者支援(伏見全日)	毎月1回	11	11	伏見工業高校
高校中退者支援(西京定時)	毎月1回	9	9	西京高校
高校中退者支援(上記以外)	随時	1	1	
(9)定着・ステップアップ支援				
ステップアップ支援相談	通年	―	184	
定着支援相談	〃	―	118	

2. 子ども・若者総合支援事業（指定支援機関受託業務）

子ども・若者支援地域協議会において，支援の主導的役割を担う指定支援機関として，関係機関と連携のもと社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者の社会的自立に向けた総合的な支援に取り組んだ。また，中京青少年活動センターの子ども・若者総合相談窓口と子ども・若者支援室の機能を以て，ひきこもり地域支援センターとして位置づけられている。

(1) 個別ケース支援（支援対象者等に対する相談，助言，指導及び支援の進行管理）

総合相談窓口や関係機関からリファーされた支援地域協議会による支援を必要とする対象者に対して，支援コーディネーターが相談，助言，支援のコーディネート及び進行管理等を実施。対象者の状況に応じて，住居やその近隣の施設などへのアウトリーチの方法も用いて支援を行った。

○支援ケースは108ケース（前年度からの継続：73ケース，新規：35ケース）。昨年度から変化なし。

○年度内に，支援を始めて6ヶ月経過した27ケース中，12ケースが状態の変化が見られる。状態変化の割合は64．3%から44．4%に減少（ひきこもり状態の若者の支援が増加したことが要因）。

○支援ケースの6割以上がひきこもり区分であり，増加傾向。本人に出会えない状態から始まるケースが半数以上。

○本人支援のためのアウトリーチは，29ケース110回（うち家庭訪問は8ケース48回）実施。減少傾向。一方，手紙での支援が28件増加。

(2) 支援地域協議会との連携

必要に応じて，個別ケース検討会議を実施するほか，地域協議会に設置された課題別検討部会（ひきこもり支援チーム）における検討等を通して，構成機関と連携しながら，支援を行った。

○個別ケース検討会議を50ケース，延べ236回実施（前年度は57ケース，述べ375回）。ケース数，実施回数ともに減少。

○代表者・実務者会議（2回）とともに，課題別検討部会を3回実施。ケースに基づく課題の検討を実施。

(3) NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業の実施 及び 関係機関・団体との連携

NPO等民間団体の支援事業に助成することを通し，その活動を促進するとともに，指定支援機関とNPO等民間団体，団体相互の連携・協力の機会を設定した。

○11団体の事業について採択，助成。

＊親子支援ネットワーク♪あんだんて♪／京都ARU／京都オレンジの会／京都教育サポートセンター／恒河沙母親の会／まちの学び舎ハルハウス／京滋こどもソーシャルワークセンター／勇気の出るライブ実行委員会／若者と家族のライフプランを考える会／グループのそのまま／京都老人福祉協会　就労継続支援A型ワークパートナー YUI

○「講演会＋NPO活動紹介・交流会」（タイトル：「見えていますか，ひきこもる若者の姿～関わり方のヒント～」，講師：西隈亜紀氏）を実施（2015年11月29日）。定員150名を上回る216名が参加。

交流会には助成団体のうち10団体が出展。講演会，交流会とも非常に好評であった。

(4) 協会内部資源の活用・連携

子ども・若者総合相談リンク機関として位置づけられている「若者サポートステーション」，「青少年活動センター」と，総合相談窓口・支援室とが密接に連携し，子ども・若者の総合的な支援に努めている。

○各活動センターに支援連携担当を置き，月1回担当者会議を実施して連携方法・現状を協議・確認した。

○各活動センターに支援コーディネーター，相談員が年1～2回訪問を行った。

○若者サポートステーション，青少年活動センターの紹介による子ども・若者，家族，機関からの相談：31件

○青少年活動センター，若者サポートステーションのユースワーカーからの相談：15件

○相談窓口における，若者サポートステーション・青少年活動センターへの紹介：87件

○支援ケースにおける，青少年活動センター・若者サポートステーション機能の利用：105件

(5)ピアサポーター養成・派遣事業

昨年度に引き続き，支援コーディネーターとともに，対象となる子ども・若者の社会的自立に向けた支援に協力する「ピアサポーター」の養成派遣を実施した。

○ひきこもり支援専門委員会において，他機関・団体とともに現状についての情報共有，ピアサポーターの派遣について検討した。

○ピアサポーターミーティングを月 1 回継続。活動のふり返りや検討，ニーズに応えた形での研修を行った。

○ミニグループ活動（モノタメ:ものは試しの略）を始めるにあたり，活動内容等を検討，8月より隔月での実施が可能となった。

＊ピアサポーターの派遣は6ケース，延べ30回。訪問同行・本人や保護者の面談同席・ミニグループと活動内容の幅も広がった。

(6)子ども・若者総合支援機能の発信

視察対応，外部での講演等の機会を通じて，子ども・若者総合支援とユースサービス協会全体の機能について広く発信に努めた。

○子ども・若者総合支援に関する視察・調査対応：14件（前年度：22件）

○外部発表・出展：10件（前年度：15件）

○「子ども・若者支援事業5年レポート」を作成発行。

○京都市内の大学に訪問（12校）。広報活動を行った。

(7)京都市ユースアクションプラン認証事業

青少年育成団体やNPO団体等が実施する，子どもから大人へと成長する青少年を支援する取組の内，「京都市ユースアクションプラン」の主旨に基づくものを京都市が認証し，広報や活動を促進した。

○ユースアクションプランの趣旨に合致する取り組みの事業申請募集を行った（認証事業165件）。

○ユースアクションイベントガイド夏休み号（30，000部，約300か所に配布）と，ボランティア特集号（10，000部500箇所）を発行した。

○WEB版のユースアクションプランイベントガイドを毎月更新し発信した。

(8)総合相談窓口事業（青少年活動センター指定管理業務）

「子ども・若者育成支援推進法」に規定されるワンストップ窓口として，「子ども・若者総合相談窓口」を中京青少年活動センター内に設置しており，社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者やその家族からの相談に対応した。また，「ひきこもり地域支援センター」の相談窓口としても対応している。

○新規相談は，408件。前年度（375件）より増加。

○上記新規相談のうち，本人からの相談は108件（26．5%）であった。相談内容は「ひきこもり」が37．0%と最も多く，その他にも多様な相談を受けている。就労が減少し，進路が増加傾向にある。

○年代別では，10代が27．5%（前年度：31．2%），20代が42．4%（前年度：37．3%），30代が21．3%（前年度：18．4%）であり，10代の相談割合が減少し，20代，30代が増加。

3. 中学3年生学習支援事業の受託（京都市保健福祉局）

京都市保健福祉局からの委託により，生活保護世帯や「生活困窮」世帯において進学を目指す中学生（特に3年生）を対象として，学習支援を行う取組を実施した。BBS会及び地域のNPOや民間団体，大学等の協力を得て集まった大学生を中心とするボランティアが，1対1の形で勉強を教えたり，話し相手になったりすることで中学生の成長を支える活動を行った。2014年度は新たに深草エリア及び西京エリアで開設（7月から）した。

〇中学生（一部高校生を含む）の登録者は150人あまり。200人を超えるボランティアが協力した。
〇年間567回の学習会を開催し，学習者は延べ約3，100人，ボランティアは延べ約4，100人が参加した。

＜各地域での実施状況＞

実施場所	参加者（登録者）	ボランティア及びスタッフ	実施曜日	実施の枠組み
北青少年活動センター	15	33	毎週木曜日	BBS会と連携
伏見青少年活動センター	10	18	毎週木曜日	BBS会と連携→単独運営化
山科青少年活動センター	13	22	毎週金曜日	NPOと連携
南青少年活動センター	9	12	毎週木曜日	単独運営
洛西（コワーキングスペース）	28	17	毎週金曜日	地域団体と連携
中京青少年活動センター	16	25	毎週金曜日	学習支援団体Apolonと連携
醍醐（こどものひろば事務所）	8	15	毎週火曜日	NPOと連携
右京（山ノ内社会福祉会館）	24	30	毎週木曜日	花園大学と連携
左京（左京区役所）	12	19	毎週金曜日	ノートルダム女子大他の協力
深草（龍谷大町家キャンパス）	14	22	毎週火曜日（7月から実施）	龍谷大学の協力
西京（西京児童館）	2	8	毎週月曜日（7月から実施）	市社協の協力

＊洛西での実施は下京青少年活動センターがボランティアのコーディネートを行うとともに，地元育成グループにコーディネーターを出していただいた。
＊醍醐ではNPO法人山科醍醐こどものひろば，右京では花園大学教員にコーディネートを依頼している。
＊深草では，龍谷大学文学部の林准教授に協力いただき，教職課程の学生がボランティアとして協力してもらい実施している。
＊西京では，京都市社協の協力により西京老人福祉センター・デイサービスセンターとの合築施設を会場に提供いただき実施している。
＊中学生の受験が近づく秋以降，ニーズに対応して，いくつかの学習会で他の曜日にも実施した。

Ⅲ. 中京青少年活動センター

全体の動向

“若者をめぐる課題を広い視野で考え市全域を意識した活動を展開する”ことをテーマとして，事務局と一体的にセンター間連携事業の中枢となるよう運営した。施設利用者数は102，686名と前年度比6，230名となっている。事業参加者数が減少している一方，ロビーやトレーニングジムの青少年利用，一般利用が増加している。

1．青少年活動センター間連携事業

各センターのもつ資源や機能が連携を通して，利用する人たちに有効に活用されるとともに，事業の質を向上させていくことを目指す。

(1) 青少年交流促進・多世代交流事業（青少年と青少年に関わる多世代が交流できる場づくり）

①ユースシンポジウム2015「人生はサバイバル！！」の開催

○9月27日に開催，実行委員（18人）を組織し，青少年参画による企画運営を実現した。参加数は165人（延べ345人）であった。

＊対談会：これが私の生きる道（対談の他に参加型のプログラムでそれぞれの人生について考えた）
＊トークフリマ：reconsider：本当の自分（対話型のブースを展開した）
＊交流会：「また逢う日まで」

②ライブキッズ

○12月12日（土）13:時～19時半に開催

＊25回記念大会のキックオフイベントとし，大会PRを中心としたMUSICとDANCEの発表を行った。
＊セクシュアルヘルス啓発ブースや協会PRブースを設置。
（ボランティア数：21名／出演者数：120名／来場延べ750名）

(2) 相談業務の全体調整

○多様な相談に対応し，必要に応じて他機関への連携。

○各センターに「支援連携担当」を配置し，サポステ・支援室，他支援機関との連携の窓口となるとともに，インテークを担う体制を作った。

○相談業務の利用者・市民向けのアピールをし（学校訪問プロジェクトと連動），相談が気軽に受けられることを知ってもらう。

(3) 青少年活動センター登録グループの全体調整

○全センターの登録グループ事務，WEBページの情報公開を担当した。

2．若者の新たなニーズの把握と対応した取り組み

①☆スタートアップ for Youth（個人・グループ支援）

○グループ運営の相談や広報協力などの支援を行った。
＊恋愛 CAFE 企画，高校生 Cafe 企画の運営サポート

○新規位置づけとして新たな取組みに至らなかった。

②10代ニーズの把握　（中退予防を中心に）

○10代ニーズアンケート調査の実施

＊ロビー利用者・通信制高校・イベント参加の10代から回答（116 件）
＊SNS疲れや関係性のつくり方について課題が見えてきた。

○京都市長選挙に向けたロビー展開事業の実施。

＊政治参加意識調査をロビーにて実施。
＊「なりきり出馬コンテスト」，選挙クイズ等，選挙や政治を“自分事”として捉える試みとして実施した。

○相談5ヵ年間の経年変化

＊10代からの相談の割合は年々増加している。
＊主訴はグループ運営や学校にかかわるもの，恋愛関係に大別された。
○視察研修
＊高校の中で10代の相談の場づくりに取り組んでいる実践についてヒアリングを行った。

3．居場所づくりを支援する

①街中コミュニティ
○不登校，ひきこもり，対人関係に不安があるなど，コミュニケーションに課題をかかえる青少年を対象に，グループ交流の場を提供した。子ども・若者支援室，サポステからのリファー受け入れ，情報共有しながらそれぞれの目標に向かえる場を構成した。（居場所の段階別機能1・6）
＊毎月2回（第2・第4金曜）開催。

②☆10代の場づくり（Teen's ア・ラ・カルト）
○「新たなニーズに対応した事業」の「10代ニーズ調査」からのプログラム実施には至らなかった。
○SH 事業として10代をターゲットにした「恋愛 cafe」を大学生ボランティア6名と企画実施（2／7）。参加者は20代の大学生4名であった。10代向けプログラムはロビーなど開かれた場で行う方がマッチしていると思われる。

③ロビープログラム
○若者が必要としたときに多様な資源（情報，地域の大人，ワーカー）とつながりをもてることを目的に実施。
＊居心地のよい空間作りとして雑誌・マンガリニューアルを行った。情報発信，提供，実習生のチャレンジの場としてプログラム実施（実習生 5 名が企画運営）また，季節に応じた交流プログラムも実施した。
○地域若者サポーターによる企画として毎月第 3 土曜日に「赤レンガ cafe」実施（8 月除く）。サポステ・支援室ケースの若者もつながった。

4．地域交流・連携・参画事業

センター機能や資源を活用してもらえる，またはセンター運営について理解者が増える状態をめざし取り組んだ。

①中京区を中心とした地域との連携事業
○人づくり21世紀委員会中京ネットワーク実行委員会／市男女共同参画推進協会／中京区要保護児童対策協議会／中京福祉事務所　その他

②育成委員会の設置と運営
○10月19日に総会を開催した。学校での取り組みについて長者副委員長（光華中高校長）から話題提供をいただき協議の時間を持った。

③「京都アートフリーマーケット」（共催事業）に併せてユースフリマを開催（9月及び3月）した。
＊若手造形家・活動者の作品の展示販売に協力し特別会場を設置した。
＊青少年グループや育成登録団体，福祉団体が出展するユースフリマを同時開催した。（自主事業）

5．担い手育成事業

ユースサービスを通じて，ユースワークを経験した若者が育つことを目指し取り組んだ。

①インターンや社会教育実習などの受入れ
○年間を通して合計 10 名受け入れた（コンソーシアム京都から 2 名，立命館大学全学インターンから 3 名，京都橘大学から 1 名，龍谷大学大学院協定型インターンシップから 1 名，立命館大学大学院 YW 実習として 1 名，光華中学校から 2 名が職場体験として参加）

②ユースサービスを通じ経験した若者による企画等の実施
○スタートアップfor Youth（個人・グループ支援）《再掲》

6. 利用促進と市民的認知の拡大につなげる情報発信と広報

①自習室・フリータイム事業

○自主活動の場提供として空き部屋有効活用に取り組んだ。

②トレーニングジムガイダンス

○ジムの運営及びガイダンスの実施

＊トレーニングジム利用者を対象に，ジムの安全利用を目的としたガイダンスを行った。（月2回，臨時）

＊ガイダンスの実技指導はボランティアスタッフ（登録6人）の協力を得た。

③教室事業（中京センター自主事業）

○年間4クールのスポーツプログラム（ダンス・ヨガ等）を実施。両教室合わせて67名参加。他事業と異なり，社会人の若者の参加が多かった。

④学校訪問プロジェクト

○年間を通して8校訪問。10代ニーズ把握でのアンケートに協力いただけた学校もあった。

○学校のニーズを聞ける関係づくりを意図したが，内部共有の記録化までは至らなかった。

7. 相談・支援にとりくむ

①相談事業

○若者個人だけでなく，支援機関や保護者からの相談が一定数ある。しかし件数としては前年度比マイナスであり「グループ内での人間関係」や「グループ運営」についての相談が減少。

○相談窓口としての機能周知。

8. 中3学習支援事業「かけはし」

○立地を活かして中京区以外の地域（上京，右京，東山，洛西）からも学習者を受け入れ，中高生15名が登録した。ボランティア 32 名登録。運営は学習支援団体 Apolon の協力のもと行った。

＜事務局・中京行事一覧＞

事業分野	事業名	日程	回数	参加数（延べ数）	備考
情報受発信事業	広報誌「ユースサービス」	年3回発行	3	－	
	育成団体活動報告・交流会	2月6日	1	(31)	28団体
担い手育成事業	YW養成講習会①	8/22・23	2	14	
	YW養成講習会②	3/12・13	2	10	
青少年の交流促進・多世代交流事業	ユースシンポジウム	9月27日	1	165(345)	
	ライブキッズ	12月12日	1	110(750)	新風館
新たなニーズ把握と対応した取組み	10代ニーズの把握	2-3月	2	(148)	ボランティア含む
	スタートアップ　for youth	通年	2	-	
	SH事業（啓発）	通年	3	(66)	ボランティア含む
居場所づくり支援	街中コミュニティ	通年	24	27(270)	
	10代の場づくり	7-2月	9	(108)	
	ロビープログラム	通年	7	(545)	ボランティア含む
利用促進事業	ヒップホップ①-④	年間4クール	36	22(158)	自主事業
	ベーシックヨガ①－④	年間4クール	40	71(581)	自主事業
	ジムガイダンス	通年	33	359	ボランティア以外
	フリータイム	通年		99	
	自習室（中京）	通年		2,178	

Ⅲ. 北青少年活動センター

全体の動向

○育成団体や一般利用，事業参加が増加したものの，青少年グループが大きく減少し，総利用者数は対前年度比で約1000名減少した。

○北山三学区をはじめ，センター周辺の地域との関係づくりに重点を置いている。

○居場所づくり事業や職業ふれあい事業では，青少年の自立に向けた動きをサポートし，自分自身の課題に向き合いながら，新たにボランティア活動を始めるなどの成果が見られた。

1. 自然体験・環境学習事業

(1)北区周辺の自然や文化に親しむプロジェクト

○自然と暮らし・文化を感じるプログラムを実施した。「大文字ナイトハイク」では，ナビゲーターから山と付き合った暮らし方についてお話いただき，“自分の生き方”を考える機会となった。

○「ゆず絞り体験」では，地元の方から水尾地域の歴史や柚子栽培についての話，さらには農山村地域での暮らしや過疎の現状についてもお話しいただき，理解を深めた。

(2)こども自然体験クラブ

○月に2回程度，青少年ボランティアが定期的にミーティングを行い，北区周辺で「どろんこ田植え体験」や「水辺の生き物観察」など，自然の中で遊びながら，学びを得ることができる体験型のプログラム（小学生対象）を企画運営した（計4回）。

(3)環境負荷の少ない施設運営と啓発

○KESの取り組みの一環として，紙屑の回収，節電・節水・ゴミの分別，「京都ごみゼロ大作戦」への参加など，利用者に協力を呼びかけるとともに，ウェブサイトやFacebookでも発信した。

2. 居場所づくり支援事業

(1)みんなの居場所～ごぶSAT（ごぶさた）

○毎月第2・第4土曜日に，コミュニケーションが苦手など，何らかの課題を感じている青少年を対象に，料理やレクリエーションなどのプログラムを実施した。個人面談を実施し，それぞれが感じる課題を本人と共有した。解決に有効な共同作業などをプログラムに組み込み，就労・進学への意欲や成長が見られた。

(2)アフタヌーン亭（しゃべり場）（地域若者サポーターと共催）

○北・上京・左京ブロックと共催し，毎月第2・4土曜日に「アフタヌーン亭」をロビーにおいて実施した。青少年の異世代交流の場となっている。

3. 地域交流・連携・参画に関わる事業

(1)地域活性ボランティア

○地域の環境団体（日本環境保護国際交流会）と月1回，定期的に紫明通りの清掃活動を行った。

○北区役所のふれあい事業（北区民春まつり，北区民文化フェスティバル）に参加協力したり，地域のイベントのブース出展（FUNAOKA　STANDARD，新大宮夏祭り）にも参加した。

(2)伝記作成プロジェクト

○青少年がセンター周辺にお住いの高齢者から人生のお話を聞き取り，手づくりの冊子（伝記）にまとめ，敬老の日に贈呈した。

○高齢者から戦争体験や戦後の復興時代，その後の人生のお話を聞くことで，教科書に載っていない学びの機会があり，青少年が今の時代との違いを考える機会となった。

(3)サンタになろう！（サンタクロース・プロジェクト）

○クリスマスイブの夜に，青少年がサンタやトナカイに扮して，保護者から事前に預かったプレゼントとパフォーマンスを届けた（訪問家庭12軒）。

○ボランティアには発達障がいの若者も受け入れた。多様なメンバーが一緒に活動し，子どもの喜びや笑顔にふれて高い満足感と達成感を得た。

(4)西陣ひと・まち・もの語り

○事業のスタイルを「通年」から「期間を定めた活動」へと変更した。

○西陣空襲を題材にインタビューをした内容を文章にし，フリーペーパーの形にまとめた。

(5)北こみまつり（北区身体障害者団体連合会と共催）

○センター全館と保健センターの一部を使用し，活動発表ステージや，障がいについて理解を深めるブース

からなるイベントを企画実施した。事前オリエンテーションでは，当事者の話を聞くことで青少年が「障がい」について理解し，学びながら交流できる機会を設けた。

(6)HIV・性感染症予防啓発事業，若者しゃべり場（保健センターと連携）

○「北コミフェスタ」内で「HIV予防・啓発」に関するパネル展示と，エイズ予防啓発グループ「紅紐」のコーナーを設けた。HIV即日検査（無料）も実施し，15件の受診があった。（昨年度比＋5件）

(7)つながるワークショップ（北区役所との協力事業）

○北区役所主催のまちづくり事業（ワークショップ）の企画・運営を，関係する機関と協働して行った。

(8)北区学生×地域応援団（北区社会福祉協議会，大学ボランティアセンターと連携）

○北区内の4大学（京産大，立命館大，佛教大，大谷大）のボランティアセンターと，北区社協の担当者間で情報共有ができる場として機能した。さらに「学生と地域とを結びつける場」のプラットフォームとなるべく，待鳳学区をパイロット地域として設定し，地域で活動する団体からニーズのヒアリングを行なった。

4. 担い手育成に関わる事業

(1)自主活動支援事業

○青少年による自主的な企画を実施するために，必要な支援協力を行った。登録グループは，カフェピース（居場所づくり），BBS（中3学習支援），Sky Unit（清掃活動），洛北ランナーズ（スポーツクラブ）の計4件。既存のグループを加え，「新たな活動を始めたい」というニーズが寄せられた。

(2)きたせいボランティアネットワーク「KITARA」

○北センターで活動するボランティアどうしの横のつながりを増やすために，交流の場を設けた。（2回）

5. 利用促進・発信・広報に関わる事業

(1)きたせいフリータイム

○多目的ホールに卓球台を設置し，予約なしでも卓球が気軽にできる時間を月3回設けた。居場所事業に参加している層を中心に，日頃あまり運動する機会のない青少年たちの参加が多く見られた。

○青少年が集中して勉強するために自習室を開放した。今年度から登録制に変更したことで，登録時にワーカーとの会話が生まれ，これをきっかけに他の事業に参加するなどの流れが見られた。

(2)広報充実事業

○北区内の大学ボランティアセンターが主催するボランティア説明会で，ブース出展を行い，新規ボランティアの獲得を図った（京産大，立命館大，佛教大，大谷大の4大学）。

○花園高校でのワークショップ（ストレスマネジメント研修）や北区保護司会の研修会など，新たにセンターの取り組みを周知する機会を設けた。

6. 相談・支援の取組

(1)ロビーにおける情報提供事業

○「何でも質問・何でも相談コーナー」を設置し，情報提供と相談を合わせて377件が寄せられたが，特定の利用者からの継続的な投稿が目立った。（昨年度比＋194件）

○センターを利用するグループからの情報発信の場として，掲示板を開放した。（4グループ）

(2)相談事業

○件数は445件・545回と前年度（293件・289回）より大幅に増加した。（この多くは上記「何でも質問・何でも相談」によるもの）

○情報提供を除く相談では，発達障害や精神障害などを抱える若者からの継続的な相談が多く見られた。

(3)「野菜づくりから仕事に近づく～働きながら，働く事を考える16週間～」（職業ふれあい事業）

○中間的就労の場として，野菜づくりの一連の流れ（畑づくりから種まき，水やり，収穫，販売まで）を体験し，自信をつけたり，生活リズムが整うなどの変化が見られた。

○少人数でのグループ体験を通して，お互いに励ましあったり，時には注意をする関係が構築できた。達成感や信頼感を得る機会となり，8名の参加者の内，5名が就労（アルバイト含む）に結びついた。

(4)BBS中3学習会

○生活保護世帯の中学生を対象に，高校受験に向けた学習会を立命館大学衣笠地区BBS会が主体的に運営できるように支援した。

7. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

(1)非行少年等立ち直り支援事業(京都府青少年課と連携)

○京都府の「立ち直り支援チーム(ユース・アシスト)」に協力し，家庭裁判所に送致され係属中の少年を参加対象にして，地域若者サポーターとともに，月1回の地域清掃活動を行った。

＜行事一覧＞

行事名	実施時期	回数	参加者(のべ)	備考(実施場所等)
北区周辺の自然や文化に親しむプロジェクト 大文字山ナイトハイク	7／4	5		大文字山
水尾の里の暮らしにふれよう	11／28	6		右京区水尾
こども自然体験クラブ　ミーティング，下見など	通年(月2回)	49	Vo12(135)	北センターほか
どろんこ田植え体験in小野郷	5／17	1	16(Vo.6)	北区小野郷
見つけてわくわく☆真夏の川あそびin八瀬	8／9	1	15(Vo.5)	左京区八瀬
てくてく歩こう！紅葉の中のハイキングin清滝	12／6	1	5(Vo. 10)	右京区清滝
春を探しに出かけよう！in梅小路公園	3／12	1	13(Vo. 5)	梅小路公園
みんなの居場所～ごぶSAT(ごぶさた)～	通年 (第2・4土曜)	24	参加者(173) Vo(6)	北センターおよびセンター周辺地域
アフタヌーン亭	通年 (第2・4土曜)	24	参加者(265) 市民Vo(30)	
地域活性ボランティア 清掃活動	通年 (第1土曜)	10	Vo12(70) 共催団体(24)	紫明通り
定例ミーティング，準備作業など	通年	29	Vo(177)	
地域活動 (北区民ふれあいまつり／新大宮　夏祭り／FUNAOKA　STANDARD他)	随時	6	Vo(45)	北大路タウン／新大宮商店街／船岡山／北文化会館ほか
伝記作成プロジェクト 顔合わせ，インタビュー，中間報告会	6／19 ～9／23	13	4(24)	
贈呈式	9／26		4／高齢者2	紫野周辺の高齢者宅
サンタになろう！ ミーティング，研修，準備など	10／19 ～12／21	35	Vo9(116)	
施設訪問，家庭訪問	12／23，24	2	訪問施設　1 訪問家庭　12	施設(山科コロコロ体操クラブ)センター周辺家庭
ふりかえり	12／25		Vo　7	
西陣ひと・まち・もの語り　ミーティング	通年(月2)	26	Vo4(50)	
聞き取り・フィールドワーク	8／6，10／22，11／8	3	Vo(6)	北センター周辺
北コミまつり 実行委員会	9／4～3／25	8	Vo(34) 実行委員(88)	
若者ミーティング，買い出しなど	11月～3月	15	Vo(63)	
オリエンテーション	2／26		Vo5／出演者他　29	
当日	3／21		Vo16／出演者他220	
自主活動支援事業 カフェピース(若者による居場所つくり)	通年(月2回程度)	23	(52)	
SKY　UNITほか	随時	2	2	
中学3年生学習支援事業	通年(木曜)	54	学習者＋Vo(600)	
フリータイム　自習室(月3回)	通年	305	3，589	
卓球		36	270／市民Vo 30	
職業ふれあい事業 オリエンテーション，研修，ふりかえりなど	5／9	9	参加者　8	
農作業	5／12～9／18	49	市民Vo　4	農作業:岩倉長谷町
販売(イベント)	随時	4		ウイングス玄関前ほか

Ⅲ. 東山青少年活動センター

全体の動向

利用人数は64，472名で，減少傾向にある。居場所機能の充実を目的として，ロビーをリニューアルし，た。広報では，Twitterの運用を開始するなど，SNSの活用を拡大したほか，ユーザビリティ向上のため，ホームページの改修を行った。動画による発信にも注力し，総合的に件数が増加した。

1.センターテーマ「 創造表現活動事業」

(1)創造体験事業

①演劇ビギナーズユニット（京都舞台芸術協会との共催事業）

○初心者を対象とした演劇の集団創作プログラム。中学生～社会人までの参加者が，演劇の創作，修了公演を実施した。他者との共同作業悩みや葛藤を抱えながらも，ワーカーや制作スタッフからの包括的な支援から，コミュニケーションスキルや自己表現，，自己肯定感の形成につながった。

②ココロからだンス W.S

○初心者を対象としたダンスの集団創作プログラム。ワークショップを通したからだへの理解やその共有などからダンスを自由度の高い創作，集団で主体的に創作を行う体験を経て，修了公演を実施した。

○来年度は，新規ダンス事業の試行，これまでのダンスを手法とした事業の活動報告冊子を発行する。

(2)余暇活動支援事業

①東山アートスペース（A・B **コース**）

○知的障がいのある青少年を対象に，アトリエ活動を行った。運営には，美術系ナビゲーターとボランティアの協力を得て実施した。また，作品展示（東山区役所展示ホール），一般参加者向けWS（夏「クールジャー」／春「布でアートしよっ！in ゼスト御池」）を実施し，事業発信を図った。

②表現活動へのお誘い～からだではなそう～（A・B **グループ**）

○知的障がいのある青少年を対象に，自由な発想でからだを動かすワークショップを行った。運営には，ダンサー・俳優のナビゲーターとボランティアの協力を得て実施した。

○事業発信として，保護者による活動体験や写真・動画展（東山青少年活動センターロビー）を行った。

(3)若者文化発信事業

①ステージサポートプラン（28グループをサポート／YU ‘Zは，延べ41グループが利用）

○日頃の活動成果を発表する場を提供する。発表・公演に必要な一定期間，創造活動室を提供し，舞台・照明・音響関係のテクニカルサポートや制作面での支援を行った。YU’Z では，公演の決まったグループへの練習場所の提供や，公演に関する情報提供，相談などを行った。

2. 居場所づくり支援事業

(1)居場所づくり支援事業

①東山コトハジメ

○ものづくりを通した中高生限定の居場所事業。現在不登校，不登校から通信制高校へ進学した高校生が参加。大学生ボランティアが中心となり共に何をしたいかプログラム案を出し合い，地域イベントへ出ていく等社会とのつながりを感じられる機会となった。

②ものづくりワークショップ　おはようおけいこ（自主事業）

○1月～3月に様々なジャンルのワークショップを10講座実施した。課題を抱える青少年や市民など多様な参加者を受け入れることで，多世代交流の場，センターへの認知が広がった。窯元で修行中の若者が初めて講師を務めたほか，サポートステーション登録者 2 名がアシスタントを行った。

③ヒガシヤマDEものづくり

○青少年が気軽に色々なジャンルのものづくりや交流ができる環境として，工作室を開放。ものづくり初心者の技術サポートや，ボランティアスタッフの育成にも取り組み，継続的な活動に繋がった。

3. 地域交流・連携・地域参加を促進する事業

(1)地域交流・連携・地域参加を促進する事業

①地域（団体／グループ）・NPO等との連携プログラム（共催事業）

○人づくり21世紀委員会，スマイルミュージックフェスティバル実行委員会，要保護児童対策地域協議会等への参加と参画。

○大学からのインターンシップやボランティア体験，社会教育実習等の受け入れの実施。

②学校との連携プログラム

○創活番ボランティアの協力を得て，京都市中学校教育研究会演劇部会，京都府高等学校演劇連盟（中部支部）の合同公演サポートを行ったほか，京都橘大学（文化プロデュースコース専攻生）のスタッフワーク研修の開催をした。

4．担い手を育成する

○創活番ボランティアによるスタッフワークを実施し，中高生の時に学校連携プログラムでサポートを受けた新大学生が，ボランティアスタッフに登録する等，参加者から担い手への循環が生まれている。

○知的障がいのある青少年対象の余暇支援事業において，ボランティアスタッフのグループワークの時間を多く取り，参加者の変化や成長について，主体的に理解を深める機会となった。

5.利用促進・情報発信・広報を進める

（1）PR事業

①東山フェスタ

○青少年の活動発信，青少年活動センターの認知度向上を目的に，合計21のワークショップや公演，アートフリーマーケットなど，市民を対象とした9日間のイベントを実施した。

②ホームページの管理運営・情報発信

○ホームページの改装，Twitter の運用，動画の活用など，ユーザビリティ向上を図った。その結果，ホームページビュー数43，953（21．84ポイント増／11月～3月）Facebook　いいね395件（＋100件）動画再生2，760回（Facebook＋YouTube）など，総合的に件数が増加した。

6．相談・支援に取り組む

（1）相談・情報提供

○事業参加者がグループ活動を通じて感じた人間関係での悩みや葛藤，日常生活での悩みなど，ワーカーとの関係性をもとに相談を受け，自分の力で解決し乗り越えていけるよう支援を行った。

○関係団体からのリファーでは，活動機会の提供と合わせて受け入れ，継続的な支援を行った。

（2）就労支援事業（京都若者サポートステーションとの共催事業）

①演劇から学ぶ，働くためのコミュニケーションワーク（インプロヴィゼーション・ワーク）

○無業の状態が続く若者を対象に，演劇の手法を活用したコミュニケーションへの気づきを深めるワークショップを実施した。

7.運営協力会

「青少年の非行」をテーマに講演会を実施し，青少年支援に関する理解を深める機会となった。

＜行事一覧＞

事業名	実施時期	回数	参加者（のべ）
東山コトハジメ	通年（月2回）	37	336
工作室DEワークショップ	通年	17	10
ヒガシガシ	年4回発行	25	9
演劇ビギナーズユニット	5月～9月	145	1890
ステージサポートプラン	通年	172	3042
ステージサポートプランYU’Z	通年	199	1485
学校連携事業	4月～7月，9月，1月	72	2611
ヒガシヤマDEものづくり	通年（週2回）	85	512
表現活動へのお誘い	通年（月2回）	105	351
東山アートスペース	6月～3月（月2回）	44	604
職業ふれあいインプロ	年3回（5月，10・11月，1・2月）	32	131
ロビーギャラリー	通年	561	20764
自習室	通年	90	279
焼成釜一般開放	通年（月1回）	72	94
東山フェスタ	8/1～8/9	99	1317
ココロからだンス	12月～3月	72	701
おはようおけいこ	1月～3月	67	197
共催事業	12月～3月	9	148
手仕事プロジェクト	1月～3月	14	37

Ⅲ. 山科青少年活動センター事業報告

全体の動向

10代の青少年が多く来館する中で，日々，個別的なかかわりをしながら関係づくりをすすめ，学校生活や余暇・就労のサポートを行っている。事業についても， 青少年が役立ち感を感じられる機会を増やすために地域通貨「べる」を設立，運営をはじめ，センター内での活用を実施して運用ノウハウを蓄積した。また，中3学習支援，勧修学区での，「学びサポートプロジェクト」事業を継続するとともに，地域での学習支援事業や「食」に関する新たな取り組みのための準備をすすめた。

これらの事業を実現する上で，地域住民や関係機関・団体とのこれまで以上の緊密な連携が必要で，そのためのネットワーク構築を進めた。

1. 地域交流・連携・協働事業

(1) 地域協働事業

①☆やませい通貨「べる」の基金創設とその運用

○当センターの運営協力会に初期運営費を募り，基金を創設した。

○「やませいカフェ」と「やませい“あえる”フェスタ」と，山科合同福祉センターが主催する「やったね！秋まつり」の一部で,現金の代わりに「べる」が使用できる仕組みをつくった。

②やませい“あえる”フェスタ(「ぐるっとふれ愛まちフェスタin山科」への参画)

○青少年グループや育成団体による模擬店，活動紹介，企画など。高校生や大学生のグループ3団体と育成団体や地域の団体など5団体の計8団体が参加協力した。

○まつり準備の活動の対価として「べる」を発行し，身体障害者福祉会館主催のお祭の一部で利用できる仕組みを導入した。

(2) 地域参画事業

①若者の地域参画アプローチ「ソーシャル・ハブ」

○既存の地域事業の「ユースアクション」に参加した中高生が，「ふれあい“やましな”2015区民まつり(小学生向けの工作ブースの出展)」や「まちかどサンタ(清掃活動と高齢者福祉施設での交流企画実施)」に参加した。

2. 居場所づくり支援事業

(1) カフェ事業(やませいカフェの運営)

○☆放課後や休日の余暇充実のためのカフェ「Mountain Blue」を実施し，「べる」の活用がすすんだ。

○他団体や他事業との連携によるコラボカフェ，青少年の食の支援に関心のある地域住民を対象にした，青少年向けカフェ「大人カフェ」，および啓発サロン「山科でも子ども食堂，はじめません？」を実施した。

(2) 居場所事業(10代居場所応援プロジェクト)

○「中高生のフリータイム」として，中高生のセンター利用が多い土・日・祝，および学休期間中の午後の時間帯に，中高生がスポーツルームを利用できる時間帯を設定し，中高生の利用が増した。

○自習室～受験生応援企画～として，相談のできる自習室と受験カフェ(受験シーズン)を実施した。

3. 担い手養成事業

①ボランティア育成事業

○ロビーズ，やませいカフェ，中3勉強会，ソーシャル・ハブ，やませい“あえる”フェスタのボランティア説明会，交流会を実施した。

②実習生・インターン受け入れ

○京都女子大学，立命館大学のインターン生を受け入れ，実習終了後も活動に参加する学生もいた。

4. 利用促進と市民的認知の拡大につなげる情報発信と広報

(1) 利用促進事業

①共催型地域協働事業

○「たちばな倶楽部」「めくるめく紙芝居」「あそび隊」「ダンスワークショップ」「山科区母子寡婦福祉会」などとの共催事業を実施し，活動をサポートした。

②自習室の開設

○自習室の積極的な広報(「やませいだより」に掲載など)の実施をし，センター利用のきっかけとなった。ま

た，受験シーズンには，あいている部屋を活用し，自習室利用を促進した。

(2)情報発信・広報

①やませい広報プロジェクト

○山科区内の新中学１年生にパンフレットを全員配布。区内及び周辺の高校でのニュース(案内ポスター)の教室内掲示を依頼した。

5. 相談・支援事業

(1)学習支援事業

①やましな中3勉強会

○山科区福祉事務所と連携して，生活保護世帯や生活困窮世帯の中学生を対象に，高校進学のための学習支援を実施。

②勧修中学校区こどもの学びサポートプロジェクト(自主事業)

○中学校，地域住民，関係団体が共同で運営する「地域福祉型学習支援」のモデル事業として実施。

○学校運営協議会と連携し運営組織の安定化をはかるとともに，地域住民の理解の向上をすすめた。

③高校生学び・余暇サポート企画

○センター事業に関連する高校生を対象に，「テストめし」や，定期テスト期間の「グループ自習室」を試行的に実施した。また，「やましな中3勉強会」の卒業生を対象にした同窓会を，年間で2回実施。

(2)セクシュアルヘルス事業

①セクシュアルヘルス事業(自主事業)

○東部性教育ネットと共に，障がいのある若者や，支援者に向けた講座を実施した。

(3)相談・情報提供

○センター事業から相談への接続。

○事例検討，グループでの協議，研修など，相談業務にあたる職員の力量形成をはかった。

○職業ふれあい事業「アジプロやましな」

＊事前研修，就労体験，全体ふりかえりを実施した(9月)。事務作業(主に広報物作成)や窓口の受付，電話対応などの就業体験の機会をサポートした。

6. 少年非行に関する事業

若者の「いま」を考えるサロンに代わり，「子ども食堂」の実施に関心のある住民を集めた，「山科でも，子ども食堂はじめません？」を実施。継続的に関わる意思を持った人材の発掘につながった。

＜行事一覧＞

行事名	実施時期	回数	参加数/のべ	備考(実施場所等)
やませいあえるフェスタ	11／1	1	1470	センター全館
ソーシャル・ハブ	7～12月	3	172	
「べる基金」の創設および運用	通年(8月より随時)	47	129	
やませいカフェ	5／9～3／29	59	769	
サロン「山科でも子ども食堂，はじめません？」	3／24	1	52	
自習室	4／1～3／31	334	3219	
共催事業(たちばな倶楽部，遊び隊，ダンスワークショップ，めくるめく紙芝居，母子寡婦福祉会)	通年	55	727	中央公園，山科図書館など
コイトーク(セクシュアルヘルス関連事業)	2／17	1	14	ロビー
やましな中3勉強会	通年(毎週金曜日)	48	529	
勧修中学校区こどもの学びサポートプロジェクト	通年(4／23から毎週木曜日)	64	1576	京都市立勧修中学校ほか
やましな中3勉強会卒業生同窓会	7／13～2／20	5	105	
テストめし	3／3，3／4，3／7	3	30	
10代居場所プロジェクト(中高生タイム含む)	通年(7月より随時)	266	1351	
アジプロやましな	9／1～9／17	6	31	

Ⅲ. 下京青少年活動センター

全体の動向

センターの周辺に中学校はなく，高齢者住民の多い地域である。平成27年4月に移転後，施設紹介に取り組んだ。各部屋の写真やセンターまでのアクセス情報をウェブサイト上で見やすくしたこともあり，夏以降施設利用者が増加し始めた。実態としては大学生年代や，社会人が多い。利用者が増加する一方で，机やイス，照明器具など利用環境を整備することや，施設修繕に時間がかかった。施設提供と並行して，建物周囲の清掃や，地域のイベント・祭りに参加，協力することで地域との関係づくりを進めた。

1. スポーツ・レクリエーション事業

①中・高生 体育館フリータイム「パリィパリィ」

○中会議室Aを卓球,中会議室Bをダンスができる部屋として，毎週 4 時間ずつ，開放した。近隣の中学校・高等学校に広報を行ったが，年間を通して参加者が少なかった。要因として，センター周辺の中学高校に通う学生に，事業が認知されていないことや,利用実態として,中高生が少ないことが考えられる。

②中・高・大学生 音楽スタジオフリータイム「音スタ～音楽・青春・全力～」

○未実施

③トレーニングルーム・ガイダンス

○アドバイザーの協力体制づくりを行い，トレーニングルームを初めて利用する人を対象に，第 1・3・5 木曜日午後 7 時半から，ガイダンスを実施。トレーニングルームの利用者の口コミなどにより，参加者が 273 名と，昨年度の倍近くに増加した。

④トレーニングルーム利用活性化事業

○前年度，中高生年代が対象だったが，新センターでは，中学生の安全の確保が難しいと考え，対象を高校生年代として 6 月から登録の受付を始めた。友達からの紹介で登録し，登録後は，継続して部活帰りに利用する高校生が増えてきた。

⑤しもせいスポーツ教室

○ストリートダンス教室と新たにヨガ教室を実施した。ダンス教室は，前年度から引き続き，参加する高校生が学びを深め，イベント出演に向け，技術の向上を目指した。ヨガ教室は，社会人年代に人気があり，体を動かす楽しみを知ってもらおうと，ホームページに重点をおいた広報や，単発での参加を可能にするなど工夫をしたが，参加者を増やすことができなかった。

2. 居場所づくり支援事業

①ロビーワーク「グルッパ」

○中高生年代の学生限定で,しゃべりながら使える自習室を開放し,不定期でロビー利用者参加型企画を実施。選挙に関するアンケートを行い,布ぞうりを編む企画を実施した。アンケートや企画を通して,利用者の考えを聞くことが出来たり,会話のきっかけづくりができた。

3. 地域交流・連携・参画に関わる事業

①しもせいフェスタ（ラウンドアイズ）

○10月3日（土）10:00～16:00にセンター利用者・ボランティアの活動発表の場として実施した。

＊ステージ発表ブース,子どもブース,学生団体ブース,ミニ商店街ブース，ダンス・ヨガ体験ブースなどを設け,地域の方や,利用者同士の交流を図った。子どもブース,ミニ商店街ブースはセンターて活動を行うボランティアが企画提案を行い,準備,運営を行った。

②ユース街づくりスタッフ「チーム街スタ」

○若者の社会参加と地域交流の促進を図り，若者目線で“まちづくり”を行うことを目標に実施。若者が地域に出向き，地域の意見を取り入れながら，商店街の催しの企画立案を行ったり，祭りやイベントに参加した。

○今年度は,地域の魅力を発信する巨大地図を作成し各イベント等に持ち込み,地域の魅力を定期的に広報した。地域に足を運ぶことで,商店街の方や，地域活性化活動を行っている団体，地域の青年会，企業など様々な人との繋がりを作ることができた。これまで関わりのあった商店街に加え，今年度できた繋がりを活かし，よりダイナミックに事業を展開していきたい。

③プラン・ドゥ

○SWISH ダンスファクトリーからの申請による「Swish Kid’s」を 6 月から3月まで実施。

○ダブルダッチチーム「alttype」所属の青少年による「ダブルダッチレッスン」を 10 月から 3 月まで実施。

○11 月,3 月に「ダンスイベント Collection」を実施した。

④地域共催事業

○「小学校対抗ドッチボール大会」（下京区少年補導委員会），「下京区ふれ愛まつり」（下京区役所）にスタッフを派遣した。また，光徳学区少年補導委員会から「光徳学区町別対抗ドッチボール大会」の依頼を受けスタッフを派遣。センター近隣における活動の幅が広がった。

○下京区「人づくり」ネットワーク実行委員会，「下京つながりフェスタ」への協力と会場提供，地域に根ざしたバレーボールリーグ「S リーグ」(登録 72 チーム)の実施，その他「レクリエーション・インストラクター養成講習会」などの事業に共催した。

⑤中3学習支援事業「らくさいスコーレ」

○洛西地区の中 3 学習支援を中心に活動。中学 3 年生の学習者は全員希望進路に合格することができた。

＊運営に関して,運営者間（コーディネーター,洛西福祉事務所,京都経済短期大学）の関係構築を行った。その結果,関係者同士での役割分担が明確になり,頻繁に連絡を取り合える関係性を築き上げることができた。

4. 担い手育成に関わる事業

①しもせいユースボランティアネットワーク「セカハジ」

○青少年ボランティアスタッフとして， 74 名の登録があった。

＊年3回研修の場を設け,各活動で活かせるようなグループワーク研修や，ボランティア登録者同士の交流の場を設けた。また,地域から依頼を受けたイベントに,登録スタッフを派遣し,地域との交流も図った。

②しもせいチャレンジ☆キッズ

○青少年ボランティアスタッフと子どもがスポーツ・レクリエーションを通して継続的に関わることで，互いに成長するという目標の下，事業を実施した。

＊年間を通して青少年ボランティアスタッフ 53 名，子ども 41 名の登録があり，多くの参加者が成長がみられた。

5. 利用促進・発信・広報に関わる事業

○移転に伴い，ホームページを見やすいものに更新した。最寄り駅からセンターまでのルートを，写真を使って紹介したり，利用団体の活動の成果を動画や画像で紹介したりした。

＊更新頻度を増やしたこともあり，アクセス数は前年比で 16,500 件増え，52,000 件を超えた。

○利用者が必要な情報を整理し，新しい利用案内を制作した。

6. 相談・支援の取り組み（就労支援を含む）

①あたまとからだを使ってじっかんするプログラムⅡ（アジプロⅡ）（サポステ連携事業）

○事務所内において電話受付や窓口対応の就労体験を実施した。事前に体験内容に関する研修を受け，今の自分を知った上で体験が行われ，体験終了後には一日をふりかえり，他者からフィードバックを受ける時間を設けることで自分を見つめ直し，就労に向けて次のステップを具体的に考える機会となった。

②相談事業

○旧センターを利用していた中高生や事業参加者など，信頼関係が構築された若者を中心に相談を受けた。また，「超なんでも箱（なんでも質問 BOX〈再掲〉）」や，ロビーでの関わりをきっかけに悩みの相談に発展していた。学校での人間関係や就労に関する相談などを受けることがあった。

③ロビーにおける情報提供

○「超なんでも箱（なんでも質問 BOX）」を継続して実施，新しい利用者からと思われる質問も多く受け，「回答してみたい！」という利用者もいた。また，七夕とクリスマスには利用者の思いを書き込めるような企画を実施し，利用者との会話につながった。

7. 少年非行の防止・軽減に向けた取り組み

①非行防止・いじめ支援組織づくり

○下京区内の少年補導委員会主催事業へボランティアを派遣した。

＊下京警察署生活安全課との協力，意見交換。京都府青少年課（非行少年等立ち直り支援チーム）スクールサポーター立ち直り支援事業（面談・学習支援）への協力を行った。

8. 運営協力会との連携

◯センター主催事業開催にあたり，広報・備品の貸し出し・入場者の動員など多大な協力をいただいた。

4月19日（日）下京青少年活動センター　開所式
7月28日（火）運営協力会総会

9. セクシュアルヘルス助成事業（自主事業）

①パネル作成

◯協会で子どもの未来支援委員会の助成を受け，エイズ啓発のパネル作成をボランティアとともに行った。青少年が作成のためのミーティングに参加し，意見を反映したパネルを作成することができた。

②ピアサポーター養成

◯ピアサポーター養成講座として，以前から中京センターで実施してきた「みさやまミーティング」を実施，毎回10名前後（平均11.4名）の参加があった。安心して参加できる雰囲気の中，活発に話をすることができ，講座のあとも何かしたいという者もおり，新たなつながりを求めている様子が見受けられた。

＜行事一覧＞

行事名	実施時期	回数	参加数／のべ	備考（実施場所等）
スポーツ・レクリエーション事業				
中・高生体育館フリータイム「ﾊﾟﾘｨﾊﾟﾘｨ」	4月～3月	10	36	
中・高・大学生　音楽スタジオフリータイム「音フリ～音楽・青春・全力～」	未実施			
トレーニングルームガイダンス	4月～3月	27	273	第1・3・5木曜日開催
トレーニングルーム利用活性化事業	4月～3月	159	667	毎月・木：体力増強コース，火・金：筋力中心コース
しもせいスポーツ教室　ストリートダンス	5月～3月	42	213	毎週木曜日開催
しもせいスポーツ教室　ヨガ	5月～3月	35	149	毎週火曜日開催
居場所づくり事業				
ロビーワーク「グルッパ」	4月～3月	10	45	
地域交流・連携・参画に関わる事業				
しもせいフェスタ（ラウンドアイズ）	10月2・3日	2	525	
ユース街づくりスタッフ「チーム街スタ」	4月～3月	108	1094	七条通り商店街周辺,松尾大社 他
プラン・ドゥ				
Swish　Kid's	6月～3月	31	110	SWISHダンスファクトリー主催
ダブルダッチレッスン	10月～3月	23	291	
ダンスイベント「Collection」	11月・3月	2	132	
地域共催事業				
Sリーグ	6月～3月		4,255	運営委員会主催（72チーム）
レクリエーションインストラクター養成講習会	7月～11月	6	130	京都府レクリエーション協会主催
らくさいスコーレ	4月～3月	51	688	コワーキングスペース洛西
担い手育成に関わる事業				
しもせいユースボランティアネットワーク「セカハジ」	4月～3月	14	709	
しもせいチャレンジキッズ	5月～8月 10月～2月	7	127	花脊山の家　等
しもせいチャレンジキッズ（ボランティア）	4月～3月	74	706	
就労支援に関わる事業				
アジプロⅡ	1月	6	18	サポステ連携事業（1期開催）
相談事業				
セクシャルヘルス助成事業（パネル作成）	8月	7	15	
（ピアサポーター養成）	1月・2月	6	62	

Ⅲ. 南青少年活動センター

全体の動向

中高生の利用減少のため，新たな広報やかれらの意見を取り入れたロビーの模様替えを行い，愛着の持てる施設づくりを目指した。また，他者との関わりに困難さや，発達課題を持つ 20 代の若者の継続的な利用を見据えて，これまでの10代を対象にしていた居場所づくり事業の枠組みを再検討しながら取り組んだ。

1. 居場所づくり支援に取り組む

(1) 青少年が落ち着き，また余暇を楽しむことのできる居場所づくり（リラックス＆エンジョイ）

①ロビーワーク

○若者がロビーでくつろぎながら他者と豊かに関わる場づくりを目指し手取り組んだ。特に，ロビー模様替えでは，中高生から意見を募り，かれらが愛着を持てる場をつくることを大切にすすめた。

②ロビー喫茶

○気軽に利用できる喫茶を週 2 回オープン，運営はボランティアが中心に担い，中高生に加え，大学生，20 代の若者など幅広い参加があった。ただ，当初の想定をこえて居場所を求める 20 代の利用が多く，ボランティアだけでは対応が難しい場面もあり，今後の運営に課題を残した。

③自習室・フリータイム

○夏・冬休み期間は自習室ポイントカードを導入。ポイントがたまると飲み物と交換でき，その場で友人関係や進路などの話せる関係を作ることができた。スポーツルームを開放するフリータイムでは，学校や世代を超えて交流する機会が提供できた。

④「hana cafe」

○料理や喫茶に関心を持つ若者が中心となり，月1回～2回カフェをオープン。調理やカフェ運営を通して参加者にとって，自分の興味あることにチャレンジをしつつも他者と協力することを学ぶ機会となった。

⑤20代話せるプログラム「なカマメシ」

○20代の若者を対象に同世代のなかまと「食べること」を通して，ゆるやかに他者とつながる場づくりを行った。サポステからの紹介を受けた参加者がコンスタントにいた。

○一部の回では，若い女性が安心して参加できるよう，女性のみを対象にした場を持った。

(2) 青少年が成長の機会として安全な場でチャレンジのできる居場所づくり（チャレンジ）

実施にあたっては，実習生，インターシップ生の協力を得た。

①「STEP－UP」

○他者との関わりが困難な層を対象にユースワーカーと会話や軽作業を行う個別活動，女性を対象にしたグループ体験活動の園芸部（月2回）を行った。

○参加者は，継続者に加えて他機関からリファーも受け入れた。

②就労体験事業-「アジプロ」（京都若者サポートステーション共催事業）

○喫茶運営を通じた就労体験事業を年間3クール実施した。また，事業終了後もセンター事業への参加を促し，チャレンジの機会を提供した。

○センター利用者や南区行政機関，関係団体の方々が，協力者として参加者の成長を見守ってくださった。

③ボランティア活動「VoM’s」～みんなでみなみをもりあげよう～

○定例の月1回の清掃活動に加えて，フリーマーケット，近隣児童館の夏まつりのお手伝いなどに参加した。ボランティア体験に加えて，参加者がゆるやかに他者つながる場を提供できた。

(3) 青少年がその力を発揮していくための居場所づくり（アクション）

①みなみ“わくわく”プログラム

○ロビーを利用し，クリスマスサロン，もちつきを実施した。利用者に加えて，近隣住民の参加もあり，にぎやかな取り組みとなった。しかし，参加人数は思ったほど伸びず，内容，運営方法の検討が必要である。

○その他，テニス教室，バレンタイン期間中のプログラムなど中高生が気軽に参加できる取り組みを行った。参加人数は思ったほど伸びず，内容，運営方法の検討が必要である。

②M×M フェスタ（新）

○南区を拠点に活動するみかんマルシェと共催で文化＆パフォーマンスイベントを実施。企画運営は，ボランティアスタッフが担った。当日の集客は伸び悩んだが，南区を中心に活動する若いアーティストの参加もあ

り，今後の展開が期待できる。

③青少年共催事業

○京都ARUフリースクールほっとハウスとの共催喫茶ほか，ダブルダッチ協会との共催事業を行った。

2．地域交流・ 連携・地域参加を進める

①地域共催・協力事業

○地域一斉清掃（3か月に1回），夏まつり，ふれあいまつりに青少年ボランティア共に参加した。

②地域関係機関・団体連携

○南区内の地域団体，企業によびかけと育成委員会を組織し，総会のほかに，ニュースレターを送付するなど，若者支援に関心をもってもらえるよう働きかけた。

○行政推進委員会へのオブザーバー参加のほか，子育て支援，精神保健に関する定例会議へ出席し，情報の共有のほか，若者支援を行う機関として情報の発信を行った。

○近隣の児童館や中学校と具体的なケースについて協議する場をもち，支援を検討した。

③フリーマーケットinみなみ（自主）

○一般市民，地域団体，青少年団体の参加によるフリーマーケットを年3回開催した。多くの地域住民の方がセンターに足を運んでくださったが，若者の参加は少なく課題が残った。

○当日運営に多くの若者が参加，いきいきと活動する姿が，地域住民の方に好印象を与えた。

3．担い手を育成する

①担い手育成事業

○京都女子大学，京都橘大学，立命館大学大学院等からインターンシップ生，実習生の受け入れを行った。

○各事業の運営を担うボランティアの研修や活動のふりかえりを年間通して実施した。

4．利用促進・情報発信・広報を進める

①広報物の作成・発行（ニュースレターなど）

○中高生年代に向けた「みなみだより」，地域住民や近隣関係機関向けた「フォトレター」を昨年度に続き配布した。今年度は，近隣中学校の教員と龍谷大付属平安中学高校教職員，全生徒にむけて，クリアケース・リーフレットの配布を行った。

②ウェブツールや他広報媒体を活用した広報

○ホームページの定期的な更新に加えて，日頃の活動を紹介するブログ，関係者や支援者向けにフェイスブック，空き部屋情報にツイッターとSNSツールを使い分けた広報展開した。

5．相談・支援に取り組む

①相談・情報提供

○利用者からの相談は，コンスタントにあったが，相談件数としては伸び悩んだ。

○保健センター，障害者地域支援センターなど関係機関との連携を行う関係が築けた。

②みなみ中3学習会

○福祉事務所と連携した中学生の受け入れのほか，生活困窮者世帯の中学生の受け入れも行った。

○サポーターが中心となり運営を行えたが，かれらのための研修などを行うことはできなかった。

③☆ユースinfoみなみ（一部自主事業）

○子どもの未来支援委員会の助成金事業をうけて，「レンアイカフェ」や「障がいのある若者支援者のためのセミアー」などセクシャルヘルスに関連した取り組みを行った。

④10代20代ママパパ応援プログラム

○保健センターや保育所関係者と協力し，大阪府立大学大川聡子准教授を招いて，若い親のサポートをテーマにした研修会を南区で活動する保健師，保育士，児童館職員などの支援者を対象に実施した。

○若者を対象にしたプログラムは，対象者が集まらず中止となった。

＜行事一覧＞

事業名	実施期間	回数	参加者(のべ)	備考
ロビーワーク	通年・随時		756	
ロビー喫茶	毎週月・木		1，111	ボランティア含む
自習室	通年・ほぼ毎日		1，724	
フリータイム	通年・ほぼ毎日		3，696	
hana’cafe	通年（第1・3土曜日）	22	329	ボランティア含む
20代話せるプログラム（なカマメシ）	通年（毎月第2金曜日　他）	11	156	
STEP－UP	通年・毎月第1・3土曜日）	29	5（89）	
アジプロ	年間3クール		533	
	5／25～6／29，10／5～11／5 1／26～2／25			
VoM’s	通年（毎月第4土曜日　他）	21	824（905）	ボランティア含む
みなみわくわくプログラム	通年・時期に応じて		278	ボランティア含む
M×Mフェスタ	1／25～3／5		185	ボランティア/関係団体含む
青少年共催事業（ARU）	毎月2回（第2・4火曜日）	22	299	
青少年共催事業（ほっとハウス）	8/7，12/22	2	55	
青少年共催事業			127	
協力事業			164	
フリーマーケットinみなみ（自主）	6／21，9／20，12／6	3	1，411	ボランティア含む
担い手育成事業	通年（毎月第1・3月曜日）	23	54（70）	
学習支援プログラム	通年（毎週木曜日）		21(479)	ボランティア含む
サポステ連携事業			303	保護者相談及び高校訪問

Ⅲ. 伏見青少年活動センター

全体の動向

伏見開館50周年記念事業を多くの関係者を招いて開催した。利用者数は前年度より2，692名増加した。地域連携事業やロビー空間を使った他団体との共催イベントなどへの市民参加も増え，さらに認知も広がっている。また，中高生による日常的なロビー・自習室利用が定着して利用されている。多文化共生事業の取り組みも進めてきた。

1. 多文化共生社会をめざした地域課題の解決と，その人材育成

(1)多文化共生事業

①異文化交流サラダボウルproject（若者による異文化理解を深めるための事業の企画，運営）

○異文化交流をしたい青少年や留学生，外国にルーツを持つ青少年が中心となり，多文化共生社会の実現を目的に，年間を通じてワークショップや交流事業，啓発事業を開催。また，地域イベントへの協力を実施した。今年度で一定の成果をもって解散することとした。

②にほんご教室の開催

○日本語を母国語としない人たちへの学習支援活動を行なった。今年度は月曜日と土曜日クラスを合わせてボランティアの研修会をおこない，スキル向上及び運営体制の共有につながった。また，青少年がリーダーとなり，教室運営に取り組んでおり，学習者のニーズに合わせ，マンツーマンと小グループ指導などの対応ができている。

③多文化啓発プログラム

○多文化共生社会の実現に向けた事業展開を図ることをめざし，若者の多文化共生社会に向けた関心や理解を広げるため，他団体と連携した啓発イベント（NPO 法人タイ教育協会との連携による「日・タイ・カルチャー・フェア」他）を企画実施した。また，気軽に日本人と外国にルーツを持つ方が交流できる国際交流カフェや伏見地域に居住する留学生や外国籍市民を招き，青少年が異文化に触れるセミナーを開催した。更には，積極的に関連団体の主催事業に出向くなど，地域の多文化共生の現状把握と関係構築を図った。

2. 居場所づくり事業･･･社会適応に困難を感じている若者に安心できる場やプログラムを提供

(1)居場所づくり事業

①アフターは ふしみんへ

○対人関係や社会適応に苦手意識をもっていたり，園芸作業に興味のある青少年を対象に，月に 2 回園芸作業と参加者の持ち込み企画を実施するプログラムを実施した。サラダボウルprojectと共同で実施する回もあり，普段のメンバーと異なる他者との交流の場としても機能した。ひきこもりやニートの若者を支援するNPO法人京都ARUとの共催。

3. 若者の地域交流・地域連携・地域参画を促進する事業

(1)コミュニティスペース事業

①つながりカフェの運営

○ロビーと料理室を活用した多世代交流のためのコミュニティカフェとして，地域のまちづくり団体との連携によるイベント企画や，青少年が運営するカフェの開催，音楽を中心とした持ち込みイベントなどを通して，地域交流，多世代交流の場として機能した。また手づくり市の隔月開催，つな画廊（ロビーギャラリー）での青少年や地域団体の活動発信の場を提供した。

(2)地域パートナーシップ事業：地域のさまざまな団体や個人と協働した青年の地域参画事業

①健康フィエスタ

NPO法人CHARM・伏見区社会福祉協議会と主催し，京都市伏見保健センター，（公財）京都市国際交流協会の共催で，外国人のための健康フェアを実施。

○今年で 6 回目を迎えた。外国にルーツをもつ方々に実行委員会に入ってもらったり，青少年が当日運営に携わるなど，安定的な運営を行うことができた。

②ママのためのリフレッシュカレッジ（育児に対する不安やストレスの発散，地域人材の活用と空き部屋活用）

○乳幼児の母親を対象にリフレッシュできる機会としてものづくり・料理等，様々なワークショップを単発や継続で開催した。親子参加のプログラムなども増やし，子育て中の仲間づくりの機会にもなっている。また夏には「はのんの会」との共催の乳幼児をもつ親支援ワークショップの開催。中学生・高校生のボランティアが例年より多く，ボランティア活動の入り口としての機能を果たした。

③ふしみんメディアパブ事業

○情報を正しく見極め活用する「メディアリテラシー」をテーマにセミナーを開催。初心者でも分かり易い，情報の取捨選択と活用を体験するワークショップを通して，青少年のメディアリテラシー「力」向上を図ることができた。また「御香宮神幸祭」への映像撮影協力や，地域をテーマにした動画番組制作を通して，地域活動に青少年が参画する機会も提供できた。

4．担い手を育成する事業

○多文化共生事業　71名，地域連携事業5名，地域パートナーシップ事業21名，情報発信事業14名，支援事業20名　計131名の若者がボランティア登録をし，市民社会の担い手として活動した。

5．利用促進・情報発信・広報をすすめる

人と情報が集まり，さまざまな活動が生まれるような協働での情報発信の場づくりを目指す。

(1)利用促進事業

①気軽に利用できる場の提供

○「フリータイム」：予約なし，非占有の場を提供し利用者間の交流を促進した。フリータイム利用者から新規交流事業の企画が生まれ，軽スポーツを通した交流イベント（ごちゃまぜスポーツ）を6回実施した。

○「専用自習室」の設置：センター利用へのインテーク事業として位置づけ，複数人で教えあいながら勉強したいという青少年への対応として，空き部屋を利用したグループ自習室を昨年度に引き続き設置し，ニーズに応えた。また，自習室についても定期テスト前以外にも連日利用する人が増え，特に週末は満席で利用制限時間内での交代をしてもらうことが多くあり，ニーズは高い。

(2)情報発信事業

①ふしみんUSTREAMスタジオの運営

○ロビーの一角に設置した動画スタジオの運営。青少年・市民の情報発信促進，メディアリテラシー向上，市民メディアの成熟に向けて，無料で使用できる動画配信スタジオ「ふしみんメディアパブスタジオ」を貸し出しした。

②インフォメーションノート“ふしみん”の発行（年間3回発行）

○青少年ボランティアが，ページ内容の構成，取材，編集作業などをおこなった。地域での青少年が様々な人に伝えたい情報発信として，取材・編集作業などに取り組んだ。

6．相談・支援事業に取り組む

発達段階，生活環境，個別課題などに応じた移行期支援を行う。

(1)多様な価値に気づく体験型支援事業

①ロビーアクション

○主に食を通して青少年ボランティアが中高生と関わる機会の提供を行った。他者との出会い，グループ運営についてさらに経験を深めることができる機会となった。

②中3学習会「STEP」（生活保護世帯の中学生の学習支援）

○生活保護世帯の中学生の学習支援活動を毎週1回（長期休み期間は毎週 2 回），福祉事務所との協働で開催した。参加者全員が希望高校へ進学した。また，伏見区の保護課のケースワーカーを対象に，学習会についてと協会・青少年活動センターについての研修会，ボランティアとの意見交換を行い，連携を深めた。

(2)就労へのイメージを持てるような機会の提供

①サポートステーション職業ふれあい事業

○チャレンジ体験事業の提携先として，京都いたはし学園と今後の連携を確認した。

＜行事一覧＞

事業名	実施時期	回数	参加者 (延べ数)	実施場所／備考
にほんご教室／月曜クラス	通年	41	(383)	内，ボランティア200人
にほんご教室／土曜クラス	通年	42	(555)	内，ボランティア289人
ボランティア説明会，研修，交流会	通年※	4	(32)	(登録者数41人)
サラダボウルProject	通年※	51	(327)	ウェルカムパーティー，イベント等 内ボランティア登録者数10人，延べ179人
多文化啓発プロジェクト	7月～	24	(132)	国際交流カフェ，多文化共生きほんのき 延べ人数，内ボランティア延べ14人
日・タイ・カルチャーフェア	4月～6月	7	(1293)	来場者(1072人)・スタッフ・事前会議含む
アフターはふしみんへ(居場所事業)	5月～	22	(91)	
ロビーアクション	5月～ ※	17	(181)	掲示板利用人数含まず／中高生向け事業，ごちゃまぜスポーツ
STEP(中3学習支援)	通年	59	10(535)	内，ボランティア延べ298人
フリータイム	通年	370	(5170)	中会議室及びスポーツルームA
自習室開放事業	通年	528	(9739)	グループ自習室含む
職業ふれあい事業	未実施			
つながりCafe	通年	209	(1643)	出店者・来客・仕込日，縁庭含む
手づくり市	隔月第2日曜	13	(1152)	準備・出店者・来客・カフェ利用者含む
つな画廊(ロビーギャラリー)	6月～	58	(1235)	
ふしみんメディアパブ	通年　※	59	(118)	ワークショップ・番組配信・ボランティア説明会含む。内ボランティア登録5人
伏見の祭りプロジェクト	9月～11月※	2	3(6)	
ニュースレター	通年	17	(21)	取材・作業日
健康フィエスタ	7月～2月※	8	(219)	来場者(85人)・スタッフ・事前会議含む
パパ＆ママのためのリフレッシュカレッジ	7月～	42	(672)	
ノーバディーズパーフェクト	7月～9月※	11	8(256)	内，ボランティア登録20人，延べ85人
開館50周年記念事業	2月	3	107	事前準備含む

※印・・・回数・人数にボランティアミーティングを含む。参加者数欄の( )は，延べ人数

Ⅳ. 収益等事業

京都市内を中心として活動する，市民団体・地域団体・企業等に青少年活動センターを活動場所として利用していただいた。

一般利用数　47，827人